

の将来の交通量を勘案する中で、計画的な整備を進めるよう要望していく。

(建設課)

要望 長畝交差点の改良工事が早期着工できるように調整してほしい。

◆大雨災害の復旧状況について

問 8月大雨災害の長野道北側の東山地籍の水田と東山1号ため池の復旧の時期はいつになるか。

答 東山地籍の水田と東山1号ため池の復旧については、災害査定を受け工事発注に向けて実施設計をしている。東山1号ため池の工事完了時期は未定だが、東山の水田に



大雨災害の土砂崩れ現場

については、作付けに間に合うように工事を行う。

(農林課)

市民派連合

質問者

丸山 寿子

永田公由・古畑秀夫

篠原敏宏



持ち時間115分

コロナ禍での相談体制の強化と啓発を

◆農業の担い手育成

問 農業者の高齢化等による後継者不足が進んでいる。県実施の新規就業里親制度の活用の実績と、市独自の支援事業は。

答 支援に積極的な熟練



新規就農者への支援事業の充実を

農業者を里親に登録し、農業研修を2年間サポートするもので、令和3年度までに3名が活用。このうち2名は県外からの就農者である。

市の支援事業では、機械等導入の補助金や、JAとの共同事業で就農支援金がある。また、新規も含めた農業者向けの支援として、果樹棚の新設や更新、苗木の導入、遊休荒廃農地の再生等へ補助を行っている。

(農林課)

◆コロナ禍での虐待及びDVの状況と対応

問 家庭での児童虐待の相談状況と対策は。

答 親からの暴言・暴力や、親同士の喧嘩の目撃などが増加し令和2年度は365件の相談で、前年の53%増であった。コロナ禍での不安やストレス増加と、発散や身近な人への相談ができなくなったことも影響しており、



高校生による児童虐待防止啓発作品

休日の臨時相談窓口も行った。関係機関と連携し丁寧な支援を行っていく。

(家庭支援課)

問 DVについての相談業務を行っているが、状況はどうか。

答 本年度は11月まで、158件の女性からの相談が有り、56件の増加。このうち夫からの暴力の相談が65件で32件の増加となっている。身体的暴力は少ないが暴言など精神的暴力や、経済的暴力が大半である。

(社会教育スポーツ課)

◆子ども食堂を核とした居場所づくり

問 コロナ禍に配慮しての開催になるが、市としての支援と、設置数の考えはどうか。

答 今年度「子どもの居場所づくり事業補助金」を創設し、開設や運営に対し、一定の要件で交付した。食事の提供を伴わない、学習支援による居場所づくり事業についても補助を予定している。

子ども食堂は食事提供だけでなく、子どもや保護者が多様な人と出会い、様々な経験や相談ができる場としての役割を持つため、小学校区の一つはあることが望ましいと考えている。

(家庭支援課)

◆野良猫対策のTNR活動への理解を

問 飼育放棄から野良猫となり、その繁殖力の強さから近隣に被害を与えるケースに対して、TNR(捕獲・不妊手術・戻す)活動をしているボラ